

廃バッテリー価格上昇

最安値から4-5割高 精錬の生産意欲高い

廃バッテリー（使用済み自動車用鉛蓄電池）の市中価格が上昇している。国内二次精錬メーカー向け直納問屋への持ち込み価格

（スポット）は、先月からキロ5-10円上昇して40-45円どころ。最安値から4-5割上昇し、1月以来の水準に戻した。輸出ストッ

プ後の余剰感はなくなり、輸出を含めて向上してきた地金需要に合わせてメーカー買値が引き上がっているようだ。

鉛リサイクル原料の廃バッテリーは一次精錬・二次精錬メーカーによって精製・溶解され、電気鉛や再生鉛として製造される。環境

省の法改正により、価格高騰の原因となっていた韓国向け輸出が今年に全面的に止まり、国内に滞留した廃バッテリー価格は急落。3月にはキロ30円前後、地方によっては20割れまで下げていた。

需要が低調だったため、10月に入りさらに上値を追った。「粗鉛を含めて国内外に地金の買い手がいるので、一次・二次ともに生産意欲が高い（二次精錬メーカー関係者）ため、原料需給が引き締まったとみられる。

その後の4-6月は不需要期のため市中発生が減少し、7月には市中価格がキロ35-40円に小反発。長梅雨で補修バッテリーの夏季

国内のバッテリー用鉛地金は、一部バッテリーメーカーの輸入先だった豪州製錬所の操業トラブルが長引いて

いるため、輸入玉から国内玉への需要回帰が見られる。

然と上がったようだ。足元の市中価格40円台は、一次製錬・二次精錬メーカーの採算を圧迫する高値ではないものの、昨年まで長年にわたり80-100円で高止まりしていた経緯もあり、売り手の高値覚えは根強い。価格上昇に一度火が付けば拍車がかかるシナリオも想定され、メーカー側は「無理に買値を上

また、中間原料の粗鉛（プリオン）は海外からの引き合いが増え、粗鉛を含めた地金輸出入はほぼ均衡して輸入超過は解消されてきた。リサイクル生産を増やせる環境が整ってきた上に、補修用バッテリー向けの需要期にさしかかり、リサイクル原料価格は自

側は「無理に買値を上

げ、集荷競争を招くとだけは避けたい」（同）と自制をかけていく構えだ。